

モニタリングサイト1000サンゴ礁調査 (2024年度)の結果速報について

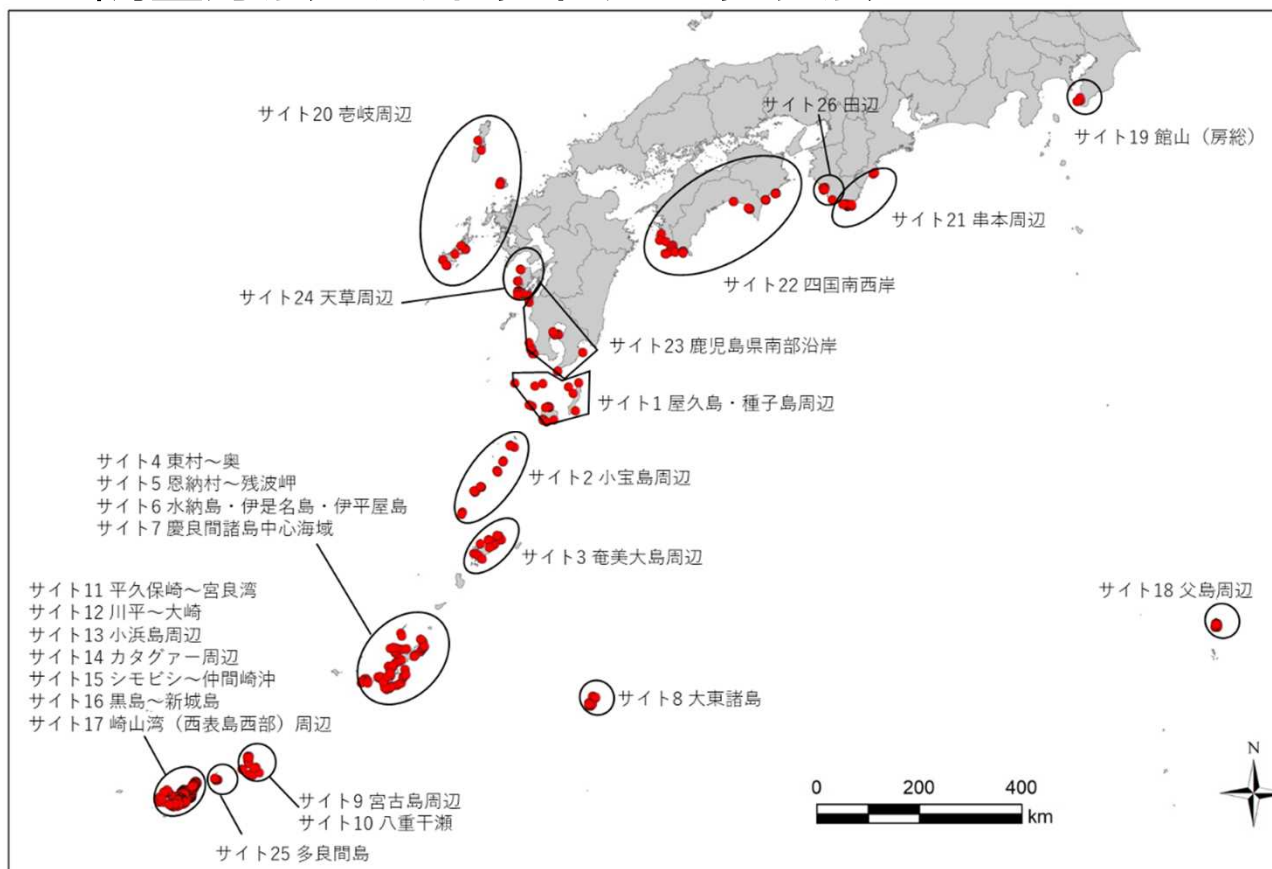
環境省生物多様性センター

モニタリングサイト1000サンゴ礁調査



(1) 概要

- ・サンゴ礁生態系の現状把握とその保全に資する情報を収集することを目的としたモニタリング調査を実施
- ・2003年度に試行調査を実施し、2004年度より開始(2024年度で22年目)
- ・調査方法：スポットチェック法



■ 調査サイト数：

26サイト

(うち4サイトは5年に1回
調査する遠隔地サイト)

■ 調査地点数：

約500スポット※

※サイトごとに複数設置した
50m×50mの調査地点

(2) 調査項目

- ・サンゴ：被度、生育型、加入度、白化現象
- ・オニヒトデ：個体数、優占サイズ、食害率
- ・物理環境：位置、地形、底質、水深
- ・かく乱要因：サンゴ食巻貝の発生状況
病気の発生状況、大型定着性魚類の個体数 等

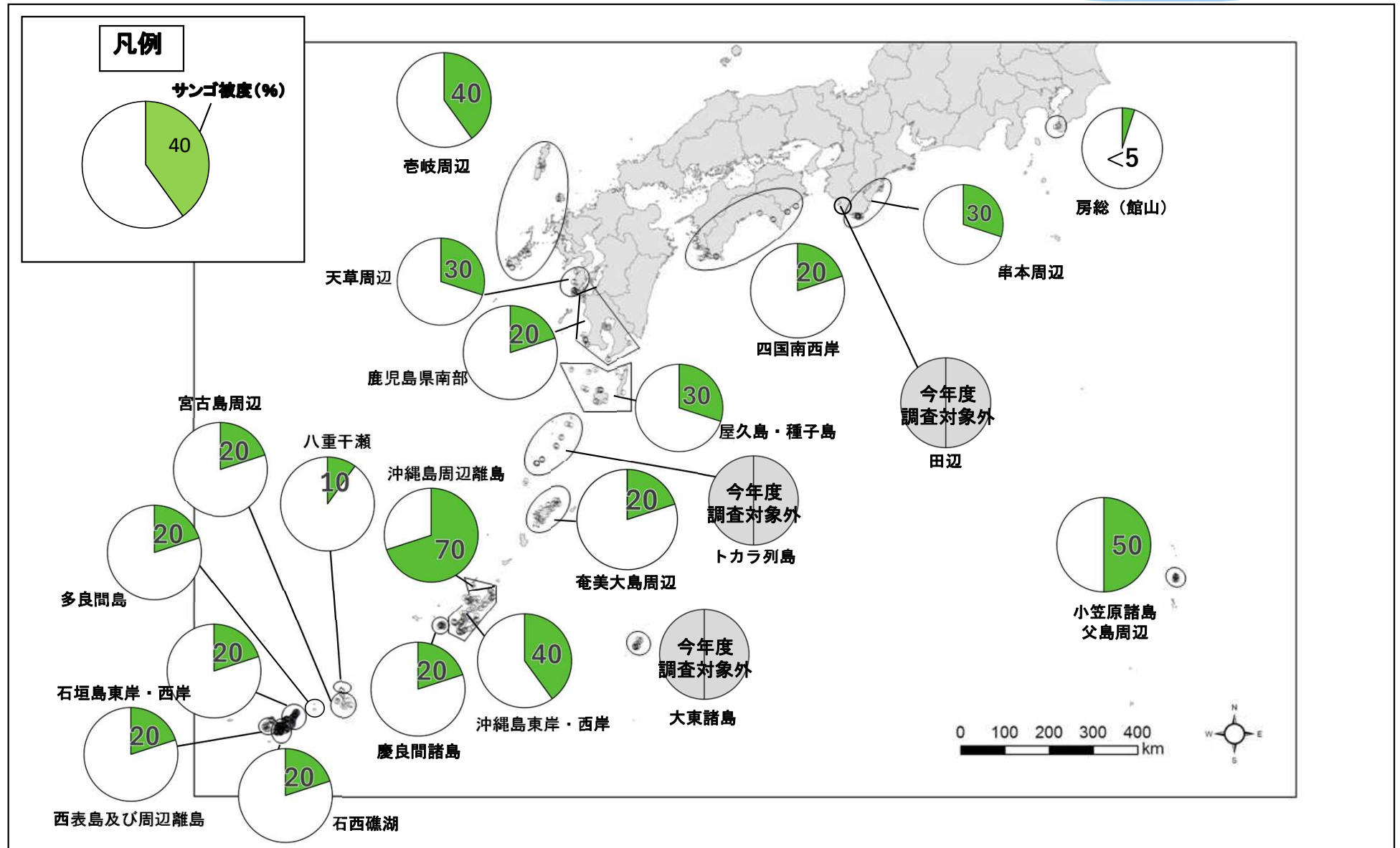


(3) 2024年度調査の概要

- 23サイトで調査を実施(毎年調査22サイト+多良間(サイト25))
 - ・ 遠隔地サイト(5年に1回調査)の小宝島周辺(サイト2)、大東諸島(サイト8) 及び田辺(サイト26)の調査は今年度未実施。
- 調査期間：2024年10月～2025年1月
- ※ 調査時期は夏期高水温の影響をモニタリングするため、基本的に秋期以降にサイト毎に設定している。遠隔地では海況を考慮し、早めに調査を実施している。

モニタリングサイト1000サンゴ礁調査

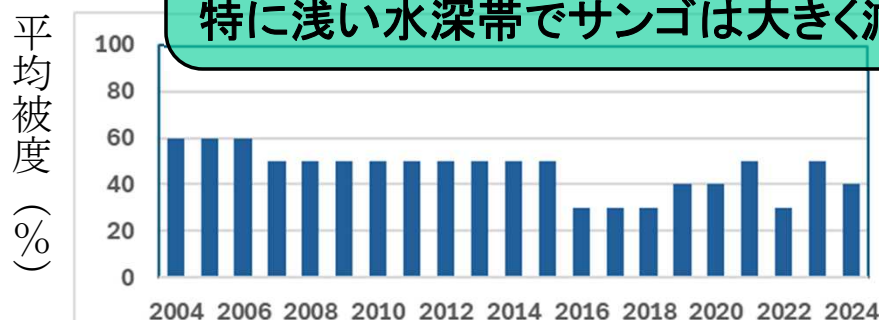
(4) 2024年度調査結果速報



(4) 2024年度調査結果速報

■ 沖縄島東岸、西岸、周辺離島（サイト4,5,6）

特に0-2mの浅い水深帯で夏期高水温の影響が強く、調査時に白化現象が進行中であった。今後、白化群体が死亡し、特に浅い水深帯でサンゴは大きく減少すると推測される。



白化したサンゴ



■ 奄美大島周辺（サイト3）

8月末まで台風の接近が無く、夏期高水温により大規模白化が発生した。礁原や内湾の浅瀬の白化群体が回復することなく死滅した。礁斜面や大島海峡のサンゴは白化からの回復傾向がみられた。



白化により被度が大きく減少



(4) 2024年度調査結果速報

■ 串本周辺（サイト21）

鏑浦・双島ともに最高水温が30℃を超え、串本海中公園センターが行っている定置観測では、8月・9月の平均水温が過去最高を記録した。昨年と比べると白化が見られた地点は増加し、場所によっては90%が白化した地点もあった



ほとんどのサンゴが白化



■ 鹿児島県南部沿岸（サイト23）

一部で規模の大きな白化が見られた。過去に大きな被害を受けた薩摩半島の北薩地域では夏期にも大きな白化情報はなく、調査時も色の薄い群体はほとんど見られなかった。大隅半島南部地域では例年同様特定の種を除き、白化は見られなかった。



大隅半島南部の健全なサンゴ



